

主要農作物の生育・出荷状況

平成29年8月31日現在
南会津農林事務所農業振興普及部

作物名	生育・出荷状況
作物	<p>【水稻】 ○出穂は平年と比較して遅れ気味であった。穂揃いはやや不良。 出穂始期：8/5(平年比+2日)、盛期：8/10(同+3日)、終期：8/20(同+7日) ○長雨、日照不足の影響で登熟は緩慢で、稲体はやや軟弱傾向。</p> <p>【大豆】 ○8月一半旬に開花を確認した。ヒエやアカザ等の雑草が目立つ。</p> <p>【そば】 ○降雨により一部で湿害がみられるが、発芽は概ね良好。 ○日照不足の影響で主茎長が徒長傾向にあり、一部で倒伏がみられる。 ○8/30現在で開花始期。 ○作柄判定は調査結果(8/25) 主茎長：121.1cm(平年比119.7%)、主茎節数：11.3節(同122.6%)、 分枝数：2.4本(同133.3%)、倒伏発生程度：少</p>
野菜	<p>【トマト】 ○組合自根苗で10段開花、5段収穫中であり、平年に比べ生育はやや遅れている。低温・日照不足の影響で着色に時間を要し、裂果の発生等により出荷量が伸び悩んでいる。上段で草勢低下による花落ちが散見される。 ○灰色かび病の多発ほ場が散見されるが、害虫の発生は少ない。</p> <p>【アスパラガス】 ○8月中旬まで低温や曇天等の影響により萌芽や伸長が鈍い状況であった。その後気温はやや回復したが出荷量は伸び悩んでいる。 ○一部ほ場でアザミウマ類、ヨトウムシ類、ハダニ類の発生が見られる。低温や降雨の影響で例年より斑点病、褐斑病の発生が早く、防除が遅れたほ場では拡大している。露地栽培では防除不足のほ場で茎枯病が拡大している。</p>
花き	<p>【リンドウ】 ○生育がやや遅れていたため、8月盆需要に対しては、やや早切り出荷で対応した。その後も遅れていた分の出荷が続いたため、市場価格が大きく低下した。彼岸需要向けの品種については、ほぼ平年並みの生育となっている。 ○中旬以降曇雨天が続いたため、防除が間に合わなかったほ場では褐斑病、葉枯病が多発。特に褐斑病は、発生するとなかなか止まらず問題となっている。</p> <p>【カスミソウ】 ○低温や曇天の影響で花の咲き進みは停滞ぎみであり、平年に比べ生育はやや遅れている。 ○一部ほ場でハモグリバエ類、カメムシ類の発生がみられる。</p>
果樹	<p>【リンゴ】 ○8月下旬より、早生種の一部品種で収穫が開始となった。 ○8月末日時点の果実肥大状況調査では「つがる」は平年並だが、「ひめかみ」「ふじ」は、平年よりも小さく推移している(体積指数比でおおよそ80%)。 ○病害は一部園地で黒星病の発生がみられる。害虫は、カメムシ類やシンクイムシ類、カミキリムシ類の発生している園地が散見される。</p>
畜産	<p>【飼料作物】 ○永年生牧草の2番草の収穫は終了し、収量は平年並み。降雨による品質への大きな影響は見られない。稲WC Sは、9月上旬から収穫の見込み。</p>

